

語り、成し遂げられる神が御業をなされるように、

あなたはキリストを信じなさい

「神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、若者たちは幻を見、老人たちは夢を見るであろう。その時、わたしはわたしの霊を、わたしの僕やはしためにも注ぐ。彼らは預言するであろう。」（使徒言行録 2:17-18）

私が存在するから神もおられるのではない。私が信じるから神が働かれるのではない。神は永遠に存在され、神の御心によって、すべてのものが神から生じ、神によって成り、やがて神のもとへ帰る。

「万物は主から出て、主によって成り、主へと帰る。栄光が世々にわたり主にあるように、アーメン。」（ローマの信徒への手紙 11:36）

1. 救い — イエス・キリストによって回復される、神が主となられるインマヌエルの祝福（神のやぐら）

1) 本来の人間

人間は、神と共に生きる存在として創られ、神の御心に従って世界を治め、支配する使命を託された。つまり、生きておられる神が、その時々に必要な御言葉、力、知恵、愛を与えてくださり、人はそれを心と思い、行動を通して現す存在として創られた。

そのようなインマヌエルの人生こそ、神が私を通して受けられる賛美であり、私たちの存在理由である（イザヤ 43:21）。

2) 根本的な問題 — 誤った選択による誤った国と道

(1) 罪の選択

☞ 創 3 章の罪によって、人は神から離れ、神に背を向けた存在となった。

(2) サタンの国、暗闇の国

☞ 光である神を拒み、暗闇の国に落ちた。

☞ 聖霊が去り、滅びの父であるサタンが支配する国に囚われた。

(3) 罪と死の道

☞ 何をしていても罪、何をしていても死へと至る。

3) 唯一の救いの道 — イエス・キリスト

(1) 罪のない唯一の人間

☞ 聖霊によって宿り、処女から生まれる。

(2) 神の契約である贖いの死

☞ 罪のない方が、罪人のために贖いの死を遂げられた。

(3) 罪と死の権勢を打ち砕き、復活し、昇天し、御座に着かれる

☞ キリストの死を自分の死として受け入れる者には、復活されたキリストがその内に生き、働かれる。これこそ、信じる者に与えられた力の秘密である。

(4) 裁き主として再び来られる

4) 恵みによる信仰

天地創造の前から救いに定められた者たちには、キリストを信じる信仰の恵みが与えられる。この信仰の恵みは、まるでスカイダイビングのようである。理屈では安全だと理解していても、恐れからなかなか飛び降りることができない人を、インストラクターが後ろから抱きしめ、一緒に飛び降りるように、神は罪とサタンに囚われた者をその恵みで包み込み、神の国へと導かれる（エフェソの信徒へ

の手紙 2:8)。

2. 証人 — イエス・キリストにあって、神の御言葉が生きて働く人生の回復と享受

1) 救いの信仰も、礼拝の信仰も、証人の信仰も、すべて「ただキリストを信じること」にある。

2) 救われた者は、礼拝や伝道のために特別な準備をするのではなく、まず「ただイエス・キリストを信じること」に徹するべきである(ヨハネ 6:28-29)。

3) そうするならば、神のすべての御言葉が私のうちに生きて働く。

(1) 御言葉が生きて働く(ヘブ 4:12)

(2) 私はキリストと共に十字架につけられたことを忘れてはならない(ガラ 2:20)。

#私にとって神の御言葉は生きて働いているか？ それとも、私はただ聖書の文字を握りしめ、御言葉を成就させるために奔走しているだけなのか？

まとめ

1) 天地を創造された御言葉である神こそが、すなわちキリストである(ヨハネ 1:1-3)。

2) 聖書を単なる経典として扱い、書かれた文字に従って形式的な礼拝を捧げる宗教生活ではなく、復活して生きておられる御言葉であるキリストに自らの人生を委ねる「生ける礼拝」を回復しなさい。

3) 常に私の心が「イエスはキリスト、生ける神の御子である」という恵みの信仰で満たされるように祈り求めなさい。そして、聖書の御言葉を、単なる思想や理念のように形骸化させたり、自分の都合に合わせて解釈したりすることのないようにしなさい。

どんな御言葉を聞くにしても、その御言葉が私の内で生きて働く霊的状态を維持することが重要である。